



Red Hat Quay 3

Red Hat Quay リリースノート

Red Hat Quay

Red Hat Quay 3 Red Hat Quay リリースノート

Red Hat Quay

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat Quay リリースノート

目次

はじめに	3
第1章 RED HAT QUAY リリースノート	4
1.1. RHBA-2024:0382 - RED HAT QUAY 3.10.3 リリース	4
1.2. RHBA-2024:0102 - RED HAT QUAY 3.10.2 リリース	4
1.3. RHBA-2023:7819 - RED HAT QUAY 3.10.1 リリース	5
1.4. RHBA-2023:7341 - RED HAT QUAY 3.10.0 リリース	5
1.5. RED HAT QUAY のリリース頻度	5
1.6. RED HAT QUAY の新機能と機能強化	5
1.7. 新しい RED HAT QUAY 設定フィールド	7
1.8. RED HAT QUAY OPERATOR	8
1.9. RED HAT QUAY 3.10 の既知の問題と制限事項	8
1.10. RED HAT QUAY のバグ修正	9
1.11. RED HAT QUAY 機能トラッカー	10

はじめに

Red Hat Quay コンテナレジストリープラットフォームは、コンテナとクラウドネイティブアーティファクトの安全なストレージ、配布、およびガバナンスをあらゆるインフラストラクチャーに提供します。スタンドアロンコンポーネントとして、または OpenShift Container Platform の Operator として利用できます。Red Hat Quay には、以下の機能と利点が含まれています。

- 詳細なセキュリティー管理
- あらゆる規模で高速かつ堅牢
- 高速 CI/CD
- インストールおよび更新の自動化
- エンタープライズ認証およびチームベースのアクセス制御
- OpenShift Container Platform 統合

Red Hat Quay は、新機能、バグ修正およびソフトウェアの更新を含め、定期的にリリースされます。スタンドアロンおよび OpenShift Container Platform デプロイメントの両方で Red Hat Quay をアップグレードするには、[Red Hat Quay のアップグレード](#) を参照してください。



重要

Red Hat Quay は、以前の z-stream バージョン (3.7.2 → 3.7.1 など) へのロールバックまたはダウングレードのみをサポートします。以前の y-stream バージョン (3.7.0 → 3.6.0) へのロールバックはサポートされていません。これは、Red Hat Quay の更新に、Red Hat Quay の新しいバージョンにアップグレードするときに適用されるデータベーススキーマのアップグレードが含まれている可能性があるためです。データベーススキーマのアップグレードでは下位互換性は保証されていません。

以前の z-stream へのダウングレードは、Operator ベースのデプロイメントでも仮想マシンベースのデプロイメントでも推奨もサポートもされていません。ダウングレードは、非常事態でのみ行う必要があります。Red Hat Quay サポートおよび開発チームと協力して Red Hat Quay デプロイメントをロールバックするかどうかを決定する必要があります。詳細は、Red Hat Quay サポートにお問い合わせください。

Red Hat Quay のドキュメントは、リリースごとにバージョン管理されています。最新の Red Hat Quay ドキュメントは、[Red Hat Quay ドキュメント](#) ページから入手できます。現在、バージョン 3 が最新のメジャーバージョンです。



注記

バージョン 2.9.2 より前は、Red Hat Quay は Quay Enterprise と呼ばれていました。2.9.2 以前のバージョンのドキュメントは、[Red Hat Quay 2.9 の製品ドキュメント](#) ページにアーカイブされています。

第1章 RED HAT QUAY リリースノート

以下のセクションでは、y および z ストリームのリリース情報を詳しく説明します。

1.1. RHBA-2024:0382 - RED HAT QUAY 3.10.3 リリース

2024 年 1 月 31 日発行

Red Hat Quay リリース 3.10.3 が Clair 4.7.2 で利用できるようになりました。更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2024:0382](#) アドバイザリーにリストされています。

1.1.1. Red Hat Quay 3.10.3 のバグ修正

- [プロジェクト -4849](#)。以前は、エクスポートはメインマニフェストリスト内の子マニフェストの有効期間終了を更新できませんでした。その結果、ガベージコレクションによってタグがデータベースから削除された後、タグによって Docker イメージをプルしようとする、例外が発生しました。この問題は解決されています。
- [プロジェクト -6007](#)。以前は、Operator は、クラスターが Route API をサポートしているかどうかを確認するために、一時的な偽のルートを作成しようとしていました。ルートと TLS コンポーネントがマネージド外としてマークされている場合、これらのコンポーネントはユーザーが手動で管理することになっているため、このチェックは実行できませんでした。この問題は解決されています。

1.2. RHBA-2024:0102 - RED HAT QUAY 3.10.2 リリース

2024 年 1 月 16 日発行

Red Hat Quay リリース 3.9.1 が Clair 4.7.1 で利用できるようになりました。この更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2024:0103](#) アドバイザリーにリストされています。

1.2.1. Red Hat Quay 3.10.2 の新機能

このリリースでは、IBM Cloud オブジェクトストレージがサポートされるようになりました。詳しくは、[IBM Cloud オブジェクトストレージ](#) を参照してください。

1.2.2. Red Hat Quay 3.10.1 のバグ修正

- [PROJQUAY-5967](#)。
- [PROJQUAY-5967](#)。

1.2.3. 既知の問題

- リポジトリ名に次の単語を含む命名規則を使用すると、既知の問題が発見されました。
トリガータグを構築する

これらの単語がリポジトリ名に使用されると、ユーザーはリポジトリにアクセスできなくなり、リポジトリを完全に削除できなくなります。これらのリポジトリを削除しようすると、次のエラーが返されます: **リポジトリ <repository_name> の削除に失敗しました、HTTP404 - 見つかりません。**

この問題に対する回避策はありません。ユーザーは、リポジトリ名に **build**、**trigger**、または **tag** を使用しないでください。

1.3. RHBA-2023:7819 - RED HAT QUAY 3.10.1 リリース

発行日: 2023-12-14

Red Hat Quay リリース 3.10.1 が Clair 4.7.2 で利用できるようになりました。この更新に含まれるバグ修正は、[RHBA-2023:7819](#) アドバイザリーにリストされています。

1.3.1. Red Hat Quay 3.10.1 のバグ修正

- [PROJQUAY-5452](#) - 直接リンクにアクセスする際にブレイクタグが正しくありません
- [PROJQUAY-6333](#) - [New UI] "member" または "creator" ロールを持つチームのユーザーには "Teams and Membership" タブが表示されない
- [PROJQUAY-6336](#) - Quay 3.10 の新規 UI が、チームの作成ウィザード中に通常のユーザーを quay 新規チームに追加できない
- [PROJQUAY-6369](#) - 検索入力ボックスは、新規 UI のデフォルトのパーミッションウィザードを永続的に削除できません

1.4. RHBA-2023:7341 - RED HAT QUAY 3.10.0 リリース

発行日: 2023-11-28

Red Hat Quay リリース 3.9.1 が Clair 4.7.1 で利用できるようになりました。この更新に含まれるバグ修正は [RHSA-2023:7341](#) および [RHSA-2023:7575](#) アドバイザリーに記載されています。

1.5. RED HAT QUAY のリリース頻度

Red Hat Quay 3.10 リリースより、この製品のリリース頻度とライフサイクルを OpenShift Container Platform に合わせて調整することを開始しました。その結果、Red Hat Quay リリースは、OpenShift Container Platform の最新バージョンから約 4 週間以内に一般提供 (GA) されるようになりました。Red Hat Quay のサポートライフサイクルフェーズが、OpenShift Container Platform リリースに合わせて調整される予定はありません。

詳細は、[Red Hat Quay ライフサイクルポリシー](#) を参照してください。

1.6. RED HAT QUAY の新機能と機能強化

Red Hat Quay に対して次の更新が行われました。

1.6.1. IBM Power、IBM Z、IBM® LinuxONE のサポート

このリリースでは、IBM Power (ppc64le)、IBM Z (s390x)、および IBM® LinuxONE (s390x) アーキテクチャーがサポートされています。

1.6.2. 名前空間の自動プルーニング

Red Hat Quay 3.10 では、Red Hat Quay 管理者は名前空間 (ユーザーと組織の両方) に自動プルーニングポリシーを設定できます。この機能を使用すると、指定した基準に基づいて名前空間内のイメージタグを自動的に削除できます。このリリースでは、次の 2 つのポリシーが追加されました。

- タグの数に基づくイメージの自動プルーニング

- タグの作成日に基づく自動プルーニング

自動プルーニング機能を使用すると、Red Hat Quay 組織の所有者は、上記のポリシーのいずれかに基づいてコンテンツを自動的にプルーニングすることで、ストレージクォータ内に収めることができます。

この機能の実装の詳細は、[Red Hat Quay 名前空間の自動プルーニングの概要](#)を参照してください。

1.6.3. Red Hat Quay UI v2 の機能強化

Red Hat Quay 3.8 では、新しい UI がテクノロジープレビュー機能として導入されました。Red Hat Quay 3.10 では、UI v2 に次の機能強化が加えられています。

- この更新により、Red Hat Quay 組織用の **Settings** ページが追加されました。Red Hat Quay 管理者は、このページから設定、請求情報を編集し、組織タイプを設定できます。
- この更新により、Red Hat Quay リポジトリ用の **Settings** ページが追加されました。このページを有効にするには、**config.yaml** ファイルで **FEATURE_UI_V2_REPO_SETTINGS** を **true** に設定する必要があります。このページで、ユーザーはロボットの権限の作成と設定、イベントと通知の作成、リポジトリの表示の設定、およびリポジトリの削除を行うことができます。
- この更新により、Red Hat Quay v2 UI でロボットアカウントのリポジトリアクセスを一括管理できるようになりました。ユーザーは、v2 UI を使用してロボットアカウントを複数のリポジトリに簡単に追加できるようになりました。
- この更新により、デフォルトのユーザーリポジトリ、つまり名前空間に **Robot accounts** タブが追加されました。これにより、ユーザーは独自のロボットアカウントを簡単に作成できます。
- この更新により、ロボットアカウントと権限の更新の作成または失敗を確認する次のアラートメッセージが追加されました。
 - **Successfully updated repository permission**
 - **Successfully created robot account with robot name: <organization_name> + <robot_name>**
また、別のアカウントと同じ名前のロボットアカウントを作成しようとする、**Error creating robot account** というエラーが発生する場合があります。
 - **Successfully deleted robot account**
- この更新により、**Teams and membership** ページが v2 UI に追加されました。Red Hat Quay 管理者は、このページから次の操作を実行できます。
 - 新しいチームの作成
 - 新しいチームメンバーの管理または作成
 - リポジトリ権限の設定
 - 特定のチームの検索
 - チーム、チームのメンバー、またはチームのコラボレーターの表示
- この更新により、**Default permissions** ページが v2 UI に追加されました。このページで、Red Hat Quay 管理者はリポジトリの権限を設定できます。

- この更新により、**Tag History** ページが v2 UI に追加されました。さらに、Red Hat Quay 管理者は、リポジトリのラベルを追加および管理し、リポジトリの指定タグの有効期限を設定できます。

v2 UI の操作とこれらの機能の有効化または使用の詳細は、[Red Hat Quay v2 UI の使用](#) を参照してください。

1.6.4. Clair のマニフェストのガベージコレクション

従来、Clair のインデクサーデータベースは、新しいマニフェストとレイヤーをアップロードするとストレージが追加されるため、継続的に増加していました。これにより、Red Hat Quay デプロイメントで次の問題が発生することがありました。

- ストレージ要件の増加
- パフォーマンスの問題
- ストレージ管理の負担が増え、管理者が使用状況を監視し、スケーリング戦略を策定する必要がある

この更新により、新しい設定フィールド **SECURITY_SCANNER_V4_MANIFEST_CLEANUP** が追加されました。このフィールドを **true** に設定すると、Red Hat Quay ガベージコレクターが、他のタグまたはマニフェストによって参照されていないマニフェストを削除します。その結果、マニフェストレポートが Clair のデータベースから削除されます。

1.6.5. Red Hat Quay のロボットアカウントの管理

Red Hat Quay 3.10 より前は、すべてのユーザーが無制限のアクセス権を持つロボットアカウントを作成できました。このリリースでは、Red Hat Quay 管理者が、ユーザーに新しいロボットアカウントの作成を禁止することでロボットアカウントを管理できるようになりました。

詳細は、[ロボットアカウントの無効化](#) を参照してください。

1.7. 新しい RED HAT QUAY 設定フィールド

以下の設定フィールドが Red Hat Quay 3.10 に追加されました。

1.7.1. Clair のマニフェスト設定フィールドのガベージコレクション

- **SECURITY_SCANNER_V4_MANIFEST_CLEANUP**。 **true** に設定すると、Red Hat Quay ガベージコレクターが、他のタグまたはマニフェストによって参照されていないマニフェストを削除します。
デフォルト: **True**

1.7.2. ロボットアカウント設定フィールドの無効化

- **ROBOTS_DISALLOW**: **true** に設定すると、ロボットアカウントの作成だけでなく、すべてのインタラクションが禁止されます。
デフォルト: **False**

1.7.3. 名前空間の自動プルーニング設定フィールド

自動プルーニング機能用に次の設定フィールドが追加されました。

- **FEATURE_AUTO_PRUNE: True** に設定すると、タグの自動プルーニングに関連する機能が有効になります。
デフォルト: **False**

1.7.4. Red Hat Quay v2 UI のリポジトリ設定の設定フィールド

- **FEATURE_UI_V2_REPO_SETTINGS: True** に設定すると、Red Hat Quay v2 UI でリポジトリ設定が有効になります。
デフォルト: **False**

1.8. RED HAT QUAY OPERATOR

Red Hat Quay Operator に対して以下の更新が行われました。

- 設定エディターは、OpenShift Container Platform デプロイメントの Red Hat Quay Operator から削除されました。その結果、**quay-config-editor** Pod がデプロイされなくなり、ユーザーが設定エディターのルートステータスを確認できなくなりました。さらに、設定エディターのエンドポイントが Red Hat Quay Operator の **Details** ページで生成されなくなりました。既存の Red Hat Quay Operator を使用しており、3.7、3.8、または 3.9 から 3.10 にアップグレードするユーザーは、**deployment**、**route**、**service**、および **secret** オブジェクトを削除して、Red Hat Quay 設定エディターを手動で削除する必要があります。この手順については、Red Hat Quay Operator の設定エディターオブジェクトの削除を参照してください。

デフォルトでは、設定エディターがすべての **QuayRegistry** インスタンスにデプロイされていたため、レジストリーの設定に関する監査証跡を確立することが困難でした。名前空間、設定エディターのシークレット、および設定エディターのルートにアクセスできるすべてのユーザーが、エディターを使用して Red Hat Quay の設定を変更できましたが、そのアイデンティティがシステムに記録されませんでした。設定エディターを削除すると、すべての変更が **QuayRegistry** リソースの設定バンドルプロパティを通じて強制的に適用されます。このプロパティは、Kubernetes ネイティブの監査とログの対象であるシークレットを参照します。

1.9. RED HAT QUAY 3.10 の既知の問題と制限事項

以下のセクションでは、Red Hat Quay 3.10 の既知の問題と制限事項について説明します。

1.9.1. Red Hat Quay 3.10 の既知の問題

- Cosign 署名を含むイメージタグをプッシュするときの自動プルーニング機能に既知の問題があります。状況によっては、たとえば、各イメージタグが別々の Cosign キーを使用する場合、自動プルーナーワーカーがイメージ署名を削除し、イメージタグのみを保持することがあります。これは、Red Hat Quay がイメージタグと署名を2つのタグとして考慮するために発生します。この機能の想定される動作は、自動プルーナーがイメージタグと署名を1つの項目として考慮し、イメージタグのみを計算することです。また、タグをプルーニングするように自動プルーナーワーカーが設定されている場合は、署名もプルーニングする必要があります。これは、Red Hat Quay の将来のバージョンで修正される予定です。(PROJQUAY-6380)
- 現在、ポリシーの作成、更新、削除などの自動プルーニングポリシー操作の監査は利用できません。これは既知の問題であり、Red Hat Quay の今後のリリースで修正される予定です。(PROJQUAY-6228)
- 現在、自動プルーニングワーカーは、通常のリポジトリに加えて、**ReadOnly** リポジトリとミラーリポジトリをプルーニングします。**ReadOnly** リポジトリとミラーリポジトリは、自動的にプルーニングするべきではありません。これは既知の問題であり、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正される予定です。(PROJQUAY-6235)

- Red Hat Quay Operator をバージョン 3.7、3.8、または 3.9 から 3.10 にアップグレードする場合、ユーザーは、**deployment**、**route**、**service**、および **secret** オブジェクトを削除して、Red Hat Quay 設定エディターを手動で削除する必要があります。この手順については、[Red Hat Quay Operator の設定エディターオブジェクトの削除](#) を参照してください。
- Red Hat Quay v2 UI を使用して新しいチームを作成すると、通常のユーザーを新しいチームに追加できません。これは、新しいチームのセットアップ中にのみ発生します。回避策として、チームの作成後にユーザーを追加できます。ロボットアカウントはこの問題の影響を受けません。これは既知の問題であり、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正される予定です。(PROJQUAY-6336)
- 新しいデフォルトの権限設定を作成するときに、**Create default permission** ボタンが無効になる場合があります。回避策として、**Create default permission** ウィザードで **Applied to** 設定を調整してください。これは既知の問題であり、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正される予定です。(PROJQUAY-6341)

1.9.2. Red Hat Quay 3.10 の制限事項

- このリリースでは、IBM Power (ppc64le) および IBM Z (s390x) で次の機能がサポートされていません。
 - Geo レプリケーション
 - IPv6 シングルスタック/デュアルスタック
 - ミラーレジストリー
 - Quay 設定エディター - Mirror、MAG、Kinesis、Keystone、GitHub Enterprise、OIDC
 - RedHat Quay V2 ユーザーインターフェイス
 - Red Hat Quay のデプロイ - 高可用性はサポートされていますが、以下はサポートされていません。
 - スタンドアロンデプロイメントでのバックアップと復元
 - スタンドアロンデプロイメントから Operator デプロイメントへの移行
- リポジトリーのミラーリングにはロボットアカウントが必要です。**ROBOTS_DISALLOW** 設定フィールドを **true** に設定すると、ミラーリング設定が破棄されます。これは、Red Hat Quay の今後のバージョンで修正される予定です。

1.10. RED HAT QUAY のバグ修正

- [PROJQUAY-6184](#)。Create robot account モーダルに不足しているプロパティを追加する
- [PROJQUAY-6048](#)。クォータが有効になっていると UI のパフォーマンスが低下する
- [PROJQUAY-6010](#)。インポートによりレジストリークォータ合計ワーカーが起動に失敗する
- [PROJQUAY-5212](#)。Quay 3.8.1 で Docker Hub から OCI イメージをミラーリングできない
- [PROJQUAY-2462](#)。removed_tag_expiration_s の型を integer から bigint に変更する
- [PROJQUAY-2803](#)。マニフェストがガベージコレクションされたときに Quay から Clair に通知する必要がある

- [PROJQUAY-5598](#)。ログ監査が読み取り専用モードでデータベースに書き込もうとする
- [PROJQUAY-4126](#)。Clair データベースが増大する
- [PROJQUAY-5489](#)。oras バイナリーを使用してアーティファクトを Quay にプッシュすると 502 が発生する
- [PROJQUAY-3906](#)。プッシュイメージ取得エラー "Quota has been exceeded on namespace" が発生した後、Quay のコンソールでプッシュイメージが表示される

1.11. RED HAT QUAY 機能トラッカー

Red Hat Quay に新機能が追加され、その一部は現在テクノロジープレビューにあります。テクノロジープレビュー機能は実験的な機能であり、本番環境での使用を目的としたものではありません。

以前のリリースで利用可能であった一部の機能が非推奨になるか、削除されました。非推奨の機能は引き続き Red Hat Quay に含まれていますが、今後のリリースで削除される予定であり、新しいデプロイメントには推奨されません。Red Hat Quay で非推奨および削除された機能の最新のリストについては、表 1.1 を参照してください。非推奨になったか、削除された機能の詳細情報は、表の後に記載されています。

表1.1テクノロジープレビュートラッカー

機能	Quay 3.10	Quay 3.9	Quay 3.8
ロボットアカウントの無効化	一般公開 (GA)	-	-
Red Hat Quay 名前空間の自動プルーニングの概要	一般公開 (GA)	-	-
単一サイト geo レプリケーションの削除	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
Splunk ログ転送	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
Nutanix オブジェクトストレージ	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	-
FEATURE_UI_V2	テクノロジープレビュー	テクノロジープレビュー	テクノロジープレビュー
FEATURE_LISTEN_IP_VERSION	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
LDAP_SUPERUSER_FILTER	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
LDAP_RESTRICTED_USER_FILTER	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)

機能	Quay 3.10	Quay 3.9	Quay 3.8
FEATURE_SUPERUSERS_FULL_ACCESS	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
GLOBAL_READONLY_SUPER_USERS	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
FEATURE_RESTRICTED_USERS	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
RESTRICTED_USERS_WHITELIST	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
アップストリームレジストリーのプロキシキャッシュとしての Red Hat Quay	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)	一般公開 (GA)
Clair を使用した Java スキャン	テクノロ ジープレ ビュー	テクノロ ジープレ ビュー	テクノロ ジープレ ビュー